

大野原の歴史と人々の営み

大野原の開拓

垂水市内から県道七一号線を車で二十分程走ると、正面に宮下商店、左折すると高峠つつじとジャパンファーム、右手に『つらさげの里うのばい』の看板が立っています。

大野原は大正三年一月十二日の桜島大爆発で家や田畑を失った人々が、水之上、海潟、白浜から五百四十二人が入植して出来た村です。

明治の初めにも高峠辺りに養蚕農家が入植しましたが、五回程で撤退しています。

本格的な開拓が始まったのは大正四年春で、国有林の払い下げ、宅地一五〇坪、耕作地一町七反で、貸付期間は二十年という条件付きでした。

原生林を切り開き、まず、その畑に植えたのはさつまいもでした。荒地でもよく育ち台風風に強く、秋には収穫が出来からずです。飲水は谷の湧水を利用し、生活上の問題解決をはかる自治組織も出来ました。

六月には大野原小学校初代校長の篠原嘉吉氏が赴任され、粗末な小屋に切り株の机とイスで、八十四人の子どもたちが集まりましたが、実際通学したのは二十人程でした。あまりのみすぼらしさに、親達が校庭を整備し、翌年には六十坪程の教室が出来ました。

その後、住民のよりどころとなる神社を勧請するため、当時の川上直信校長を中心に昭和五年、大羽重神社が創建されました。



▲現在の大羽重神社

大野原の戦後と現在

戦後新たに垂桜、大谷、駒ヶ丘、高峠、演習林が入植しました。

昭和二十四年に電灯が点き、二十九年にはバスが運行開始、三十年には電話も引かれました。人々の生活は、炭焼きと農業で、特にお茶の生産は盛んでした。

昭和四十七年から五十三年にかけて、ジャパンファームが高峠に工場を建設し創業されました。

そして平成八年、大野原小学校は閉校し、その跡地にはESD自然学校ができ、現在も住民の活動拠点となっています。



▲川上直信校長の墓石

大野原では現在、入植して初めて植えたさつまいもが地域おこしの起爆剤となり『つらさげ芋』として全国に知られるようになりました。島津墓所に隣接して、川上直信校長の墓石があります。裏面には『大野原小学校三代目校長』と刻まれています。川上直信校長は大野原小学校に七年間在籍されただけでなく、村のリーダーとして資料に記録が残っています。

川上家にとっても、墓石に刻む歴史的な出来事だったのでしょう。

【参考資料】
『大野のあゆみ』
大野中学校（昭和五十七年作成）
『垂水市立大野小中学校八十周年記念誌』
大野小中学校八十周年実行委員会（平成七年発行）



Healthmate recipe of this month 今月の食改さん



左から、市野美里子さん、池田みずずさん、立山道子さん

今月のレシピ 落花生の五目煮



- 【材料】（4人分）
☐ 殻をむいた落花生／80 g
☐ こんにゃく／40 g
☐ 人参／40 g
☐ さといも／3個
☐ しいたけ／3枚
☐ ごぼう／40 g
☐ 干しきくらげ／3 g
☐ 絹さや／3枚
☐ 砂糖／大さじ1
☐ 料理酒／大さじ1
☐ 薄口醤油／大さじ1
☐ みりん／小さじ2
 ◎出汁
☐ 水／300cc
☐ 昆布／3 g
☐ かつお節／6 g

ご飯に「落花生の五目煮」を混ぜると即席の混ぜご飯にもなります。旬の落花生を使用したレシピはいかがでしょうか。

【1人分あたり】
 エネルギー 160kcal
 食塩相当量 0.9 g

落下生の五目煮



① 落花生は殻をむき、水に一晩つけておき、下茹でをする。



② こんにゃく、人参、さといも、しいたけは、小さめの短冊切りにする。



③ ごぼうはさがき切りにし、水にさらす。



④ きくらげは水で戻し、食べやすい大きさに切る。



⑤ 絹さやは筋を取り、斜めに半分になり、レンジで1分加熱する。



⑥ 鍋にだし汁と、①～④の材料を入れ、煮立ってきたら、▲を加え、弱火で煮込む。

煮汁がなくなるまで煮詰めて、最後に絹さやを飾れば・・・
落下生の五目煮の完成です！



食改
完了